

清武システムズ



～シーズン2「清シス・アピール」～

エピソード 3：コミュニケーションへの疑問（お触り編）

『蚕』キャラ

しすてむ♥きよたけ

これは、短信に書く内容ではないだろうか。やっぱり、僕は『蚕（解雇）キャラ』（←については前号をご覧ください）だった。

契約解消が、数日の中で起きた。先月までは、「たまに来てくれるだけで随分変わるからありがたい」、「ずっと、私のそばに居て欲しい」と、たまに居ることで何か機能している、個人的な感情の提示がなされていたが、最後の言葉は、「企業間の折り合いがつかなくなった」という言葉で、解消されたのだった。具体的な内容がわからないことが、いまいちシックリ来ない。なにか前進するのだろうか？と疑問が残るからだろう。

上記を記載するのは、すごく躊躇いることだ。むしろ、書きたいくないし、書かれる側の倫理は？ともなれば、訴えられるかもしれない。書くこと、表にだすことで、僕の人格が問われる可能性も高く、清シスへの信頼が下がりマイナスになることだって多いと思う。実際に、現場の悩みを「外

に言わない方が、あなたのため」と言われたこともある。

だが、書くと決めた。うまくできるかはさておき、書くことで、誰かにも、お世話になった現場にも還元できることが出ないだろうかと思ったから。また、自分に起きた一連の流れから、僕は人との関わり、とりわけ、最近のコミュニケーションの疑問を再確認でき、それを僕なりに、そして、自分のために残しておきたいと思った。

再確認した疑問は、『蚕キャラ』を通して見えてくることがありそうだ。僕自身に起きた突然の「契約解消」。いわば、何が起きていたのかわからない状況であり、今でもそれは続いている。これが、『キャラ』を通して再確認した「コミュニケーション」への疑問が浮かび上がるのではないだろうか。

コミュニケーションが難しいと言われていた現代社会に、大切な要素にならないだろうか？例えば、人との関わりには相手理解できるように、相手のことを思ったコミュニケーションがいると思っている人が

増えている。相手を傷つけないようにと解釈されていることもある。また、空気を読むと（読めやしないのに）という言葉もその一つだろう。これらに欠けているのは、互いにどのような前提でいるのか共有や協議することではないだろうか。「言いたいこと、聞きたいことを言う」ことはそもそも避けられているのではないだろうか？という問いが出て来る。

実際に、僕に起きていたこともそうだと思う。「本人を目の前にして言えるわけがないじゃない」とか「みんながクレームを言っている」と言ったことに直面した。そこで、「具体的にはどう言った内容であり、どのような改善が必要か」前提を尋ねていたが、「それは、ちょっとわからない」「清ちゃんは自由にしてもらうのがいいと思う」とすり替えがあった。また、「そこはこちらでします」と言われてしまい「役割が重なった」と言われ不要とされる瞬間があった。

こうした現状は、歩み寄りた側としては具体的な解決を、と試みるのだが、穏便に収めることを優先するのであれば、相手の試みは嫌な接近になるだろう。役割や目的、場お状況に軸をおくのか、個人と個人の関係に軸を置くのかでコミュニケーションのズレが生じている。

僕は個人と個人も大事であるが、現場という「場」から見ていることが多い。でなければ、役割が不透明になり、糸が切れた凧のように浮遊してしまう。それは、もはや不自由だ。話しは戻るが、先に書いた「役割が重なった」と知ったならば、そこから

どのようにしていくのか。ここは誰かと過ごす以上大切なのではないだろうか。それが、自由を取り戻し始める一つでもあると思う。

だから、『蚕キャラ』と言うよう、僕が遭遇する「契約終了」は、ネガティブに捉える話しではなく、人と関わることや、協働していく上でとても大事な出来事であり、もしかすると、これから先も続いていくテーマだと思う。というか、これまでもそうだった気がする。

しかし、正直ネガティブな僕だっている。「排除しない社会」や「多様性」と言っている世の中である（そういうことを全面に出している集まりに多い）割に、排除や多様性をわかるようにするための細分化も起きている。

「状況が悪い時には頼り、よくなれば邪魔とされるのは辛い」と言えば、「被害者のに思うなら一緒に居れない」とどう考えても筋の通らない言い放ちを受け、僕としては悲しい出来事にもなっている。こうなれば、再会は難しい。きっと相手が無意識に隠していたであろう冷酷さの部分に触れるからだろうか。でも、僕は何か必要あれば、また・・・とも思ってしまうのである。（ほっとけばいいのに・・・しかし、まだ形になり始める前から直接声をかけられ、初めからかかわってほしいとオファーがあった時期のことも忘れてはいないからだ）

しかし、僕が大切にしてきたことがある。このような世の中でも、人がいかにして出会っているのかを考え、豊かな出会いの掘

り起こしを浮かび上がらせることへ。これらは、僕の人生が豊かになる。もしかしたら、僕だけじゃなく、誰かしらの人生も豊かになるかもしれない。そこから、何らかのネットワークに乗る、さらには、コミュニティがワクワクすることになりうるのではないだろうか・・・とこれからの世の中に、いや今を生きる人たちに期待をしているし、僕自身にもエールを送っている。

今回は、ここまで。今回は、大きくテーマを2つあげたい。

一つは、近年よく言われている「コミュニケーション」についてを。僕が遭遇したネガティブな出来事を振り返りながら、具体的に書けたらいいな〜と。コミュニケーションとは人間関係を良くするだけの行為ではないこと、当たり前だが、一人では起こり得ない行為であることである。二つ目は、僕の心に残っている豊かな出会い（相互行為）を綴るつもり。一つめと比較すると、少数単位で起きる相互行為レベルである。お互いが、すり合わせながら、互いに相手の豊かさを引き出し合っていた出会いである。

これら二つのテーマから、少しでも何かよかったと思うことが、読み手の中に。そして、その人たちの現場の良き風になればと思っている。一つだけでも、ボリュームミナ内容になるのだが、浅くとも二つ並べることで、僕が気づくこともあるかもしれないと思い、二つを選択しようと思う。上手に書ける自身はないが、工夫はしてみた

い。だが、毎日いろいろな「出会い」があるので、そちらも書きたい。

未来の僕は何を選び決断するのだろうか・・・目の前で起きる相手と自分と社会に右往左往しながら、悩み、何よりもそれ自体とそこからの、愉しんでいる。

綴り人/しすてむ・きよだけ

[清武システムズ](#)という看板を引っさげ、活動中。

（他者協力により HP が肉付けされました♪）めんどくさいことも起きるけど、そっから面白く展開していこうじゃないか！という、通りすがりの旅人です。

「何か変化を求めているが、手立てがわからない。」そんな時にぜひ導入を！

【連絡先】

info@kiyotakesystems.net

【これまでの綴り】

21号から連載しています。シーズン1は、「SMクラブの受付」です。SM嗜好の方やSMを学術的に研究されている方にはオススメできる内容ではございません。